

第4回

「持続可能な地域のあり方懇話会」

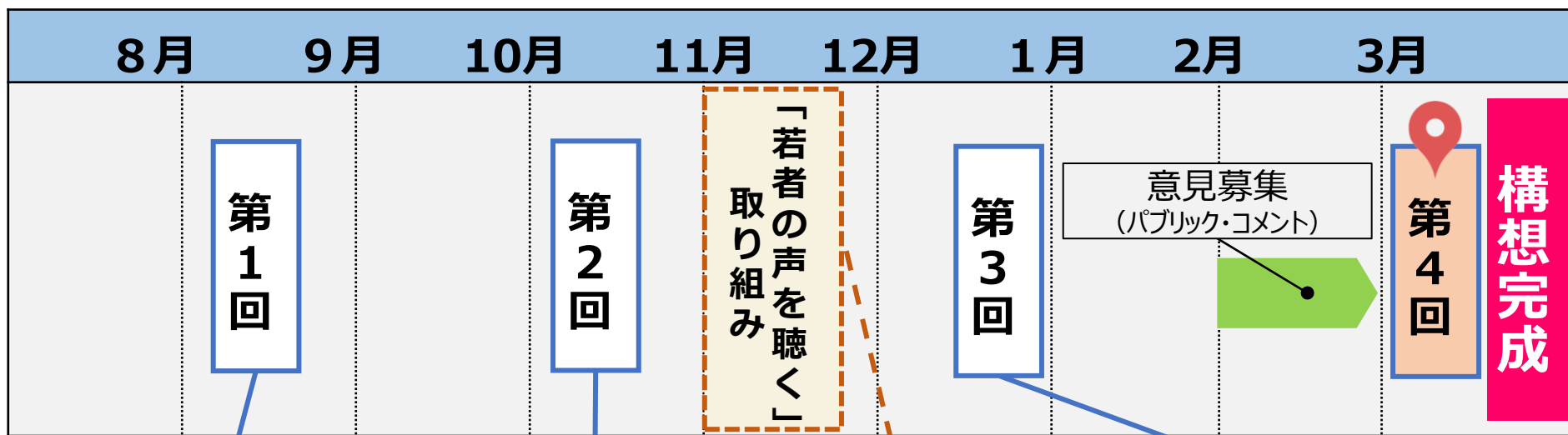


ともに、生きる。
江戸川区
EDOGAWA

令和8年3月15日

これまでの経過と今後のスケジュール

- 「持続可能な地域のあり方懇話会」は、これまで3回開催し、地域活動における課題やその解決策の方向性について、委員の皆さまのご意見をうかがってきました。
- 第3回でいただいた意見を反映した構想案について、2/1～3/2の30日間でパブリック・コメントを実施し、8名からご意見をいただきました。
- 年度内の構想完成に向けて、本日は構想案についてご意見をいただきます。



第3回あり方懇話会でいただいた主なご意見

構想全体について

- 素案についてはおおむね同意
- 100年後の人口減少に対して、区が取り組もうとされている姿勢は区民としては大変ありがたく、想いをぜひ形にさせていただきたいと感じた
- 「目指す区の姿」を改めてより明確に示してほしい
- そもそも「人と人とのつながり」がなぜ必要なのか記載しては？
- 新しいことを考えるよりも区にある個別課題を先に解決していくことが大切ではないか
- 目的を統一していないために、様々な立場で様々な意見(こうだったらいいなというような)を言い合ってしまった
- カタカナ表現を分かりやすくしてほしい

目指す地域の姿を実現するための取り組みについて

- 地域の中心として人が集まる場があるということは大事なこと
- 現在でも町会・自治会の負担が大きい。軽減できれば「地域連携の場」は意義がある
- 町会・自治会は人々が集まる場所を求めているのではない、集まる仕組みを求めている
- 区役所が身近になって、今までは行かなければいけない区役所だったが、これからは来てくれる、出迎えてくれる区役所ならば非常にありがたい
- ミニ区役所は人と人をつなぐ仲介者としての役割があるのではないか。地縁を育てる形をミニ区役所には期待している
- ミニ区役所について広く周知することが必要。学校で説明を受ける機会があれば身近に感じるのではないか

第3回あり方懇話会でいただいた主なご意見

目指す地域の姿を実現するための取り組みについて

- ミニ区役所について、どこか試作的に3～5か所でデータを取ってみるべきではないか
- ミニ区役所の使い方も2100年では変わっているのでは。時代にあわせて変化が求められる
- 現在の町会・自治会との線引きが見えない。ミニ区役所は「なごみの家」の拡大版に思える
- 誰もが立ち寄りやすい「営業時間」、「バリアフリー」の課題がある
- 視覚や聴覚など障害のある方とのコミュニケーションをどうとっていくかについても課題としてあると考える

現状の課題における課題を解決するための取り組みについて

- 短期と中長期の具体的な期間を入れるとイメージがつきやすい
- 担い手不足解消のためのインセンティブには、「金銭的」「物理的」以外に、「精神的」なものも考える必要がある
- 「コーディネーター」の役割は、区の職員はもちろん、自治会や中高生も「地域コーディネーター」として広報や運営方法の決定などを担う人たちがいてもよいのでは？
- 子どもの地域活動への参加は、その家族が参加するきっかけにもなる。また、将来の地域活動の担い手にもなる
- イベントに参加したくても、一緒に参加できる友達が地域外にいるため、一人で参加しにくい
- 「やさしい日本語講座」など外国人対応が必要
- 地域活動に楽しく元気にかかわることが重要。その姿を見て一人ひとりが自分事として興味を持ってもらいたい



「目指す区の姿」を改めて
より明確に示してほしい



3.1 地域に関わる皆さまで協力しあう仕組み(地域連携の場)とその機能

「2100年の江戸川区(共生社会ビジョン)」に描かれる「目指す地域の姿」を実現するためには、「人と人とがささえあう力」が欠かせません。

そして、その力を今後も維持し、高めていくためには、例えば以下のような活動を地域で継続していく必要があります。

おまつりなどのイベント

地域で行われる「楽しい」イベントの代表で、子どもから高齢者まで気軽に参加することができます。

また準備や当日の運営作業を行う中で、顔見知りの関係が広がり、地域に関わる皆さまの結束力が高まります。



防災活動



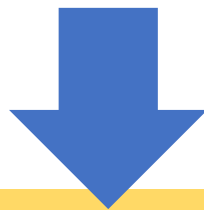
年代や障害の有無、国籍などを問わず、すべての地域住民にとって、災害への備えは命を守るための重要な行動です。

多くの方が防災訓練や避難所開設訓練などに参加することは、地域の安全・安心を高めることにつながります。



いただいたご意見

そもそも「人と人とのつながり」
がなぜ必要なのか記載しては？



1.2 本構想の背景 ～なぜ「人と人とのつながり」が必要なのか～

これまでも本区では、この「人と人とのつながり」によって数々の困難を乗り越えてきましたが、これからの江戸川区においても、つながりことの重要性に変わりはありません。

「人と人とのつながり」は、私たちが生きていく上で欠かせない、大切なものです。自分ひとりでは解決できない悩みや問題も、互いに助け合えば解決することもあるはずです。

特に災害時、この力は命を守ることにもつながります。

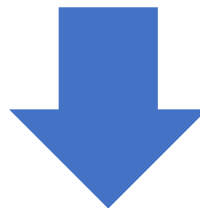
平成7年に発生した阪神・淡路大震災では、住民どうしの助け合いが多くの命を救いました。実際に、倒壊家屋などから救助された人の97.5%が、「家族に助けられた人・自力で脱出した人(自助)」と、「隣人や友人、通行人などに助けられた人(共助)」でした。

参考:東京消防庁ホームページ「阪神・淡路大震災から学ぶ自助、共助の大切さ」より



いただいたご意見

自治会や中高生も「地域コーディネーター」として広報や運営方法の決定などを担う人たちがいてもよいのでは？



第3章 目指す地域の姿を実現するための取り組み

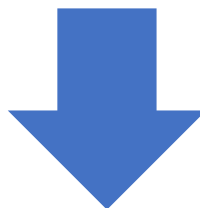
3.2 目指す地域の姿を実現するために今後検討すべき事項

3 コーディネーターの体制について

コーディネーターは「地域連携の場」に携わる職員が担うことを想定していますが、地域に関わる皆さまの役割も含め、具体的な体制や運営方法については、さらに検討が必要です。

いただいたご意見

視覚や聴覚など障害のある方とのコミュニケーションをどうとっていくかについても課題としてある



4 人が集まる仕掛けについて

学生や働いている世代、外国籍の方や障害のある方など、誰でも参加しやすい雰囲気をつくるために、できるだけオープンな場とする工夫や仕掛けの検討が必要です。

「懇話会」の参加者からは、例えば、カフェや食堂のような機能を持たせてもいいのではないかといった意見がありました。

また、一度参加した方々に興味を持ち、活動を続けてもらう環境づくりも必要であるという意見や、外国籍の方や視覚・聴覚に障害のある方などと円滑にコミュニケーションを取れる仕組みについても検討が必要であるとの意見もありました。

いただいたご意見

誰もが立ち寄りやすい「営業時間」、「バリアフリー」の課題がある



● 3.5.1 **1** 身近な場所に設置

「(仮称)ミニ区役所」についても、P.20に記したように「およそ10分以内で歩いて行ける場所」、つまり半径約800mの範囲を一つの目安とし、既存の町会・自治会の圏域を前提としながら、区内に20か所程度整備したいと考えています。身近な場所にあることで、必要な時にいつでも訪れたり集まったりできるようになります。

また、整備の際には、可能なかぎり既存の区施設を活用したり、他施設と複合化したりすることで、財政的な負担を軽減できるようにしていきます。

あわせて、誰もが集える拠点として、施設のバリアフリー化を進めるとともに、多くの方が利用しやすい開館時間の設定などについても検討が必要です。

いただいたご意見

ミニ区役所の使い方も2100年では変わっているのでは
時代にあわせて変化が求められる

ミニ区役所は「なごみの家」の拡大版に思える



3.5 「地域連携の場」が「(仮称)ミニ区役所」にあるメリット

参 考

～「地域連携の場」と「(仮称)ミニ区役所」、「なごみの家」は何が違うの？～

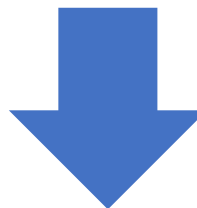
区はこれまで、「誰もが安心して自分らしく暮らせる共生社会」実現の拠点として、区内9カ所に「なごみの家」を整備してきました。「なごみの家」は地域の相談の場であり、居場所であるとともに、地域の課題を地域の皆さまの力で解決できるように一緒に集まって考えるための拠点です。

本区が整備を検討している「(仮称)ミニ区役所」は、この「なごみの家」を含め、地域事務所や健康サポートセンターなど既存の区の施設の機能を集約し、4つの機能に整理しなおすことで、時代にあわせて区民の皆さまの利便性をさらに向上させることを目指しています。

これまで「なごみの家」で実施してきた地域の課題解決のための取り組みは、「(仮称)ミニ区役所」の整備に伴い、その「地域連携の場」として発展的に引き継ぐことを検討しています。現在の「なごみの家」よりさらに身近な場所で、コーディネーターや地域支援を担当する区職員も配置することで、これまでよりさらに多様な人をつなぎ、協力関係を築きながら、その地域の特色にあわせた取り組みを着実に実行していくことができる仕組みを目指します。

いただいたご意見

短期と中長期の具体的な期間を入れると
イメージが付きやすい



第4章 現状の活動における課題を解決するための取り組み

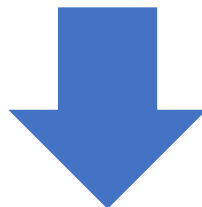
4.1 現状の活動における課題解決に向けた取り組み

課題の解決策を検討するにあたっては、第2章において分類した3つのグループに沿って方向性を整理します。

また、それぞれの解決策の実現時期の目安として、検討内容や優先順位に応じて「短期(1～2年程度)」と「中・長期」の2つに分類しています。

いただいたご意見

担い手不足解消のためのインセンティブには、「金銭的」「物理的」以外に、「精神的」なものも考える必要がある



4.2 課題解決の方向性について

A 担い手不足の解決に向けて

担い手不足の要因としては、「少子高齢化などにより担い手が減少していること」や「活動の数が増えていること」などが考えられます。これらの要因に対する解決策の方向性を以下に示します。

(3) 活動参加に対するきっかけづくり

中・長期

「懇話会」や「若者の声」の参加者からは、活動に参加した場合に何かしらの報酬などがあれば、参加するきっかけになるのではないかという意見がありました。

報酬には、経済的(例:謝礼金やクーポン券)、物理的(例:景品や飲食)、精神的(例:表彰や成果の公表)など、さまざまな手段がありえますが、その要否を含め、効率的かつ効果的な方法を研究していきます。



いただいたご意見

子どもの地域活動への参加は、その家族が参加するきっかけにもなる。また、将来の地域活動の担い手にもなる



B つながりの希薄化の解決に向けて

価値観の多様化や情報技術の発展、働き方の変化などにより、人と人とのつながりが希薄化しつつあります。アナログとデジタルの両面で、地域におけるつながりを強化する取り組みの方向性を以下に示します。

(1) 世代を超えた交流機会の創出

短期

近くに住む人同士が普段から顔見知りの関係であることが、災害時など、いざという時の助け合いにつながります。そのためにも、日ごろから世代を超えて交流することができる機会を、地域の中に増やしていくことが必要です。

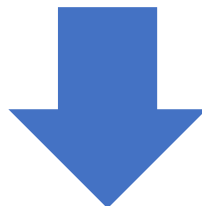
「懇話会」の参加者からは、子どもが地域活動に参加することは、その家族が参加するきっかけにもなる、子どもや子育て世代が将来の地域活動の担い手にもなるという意見がありました。

また、「若者の声」の参加者からは、特に若い世代が参加したことのある地域活動として、おまつりやラジオ体操、あいさつ運動、また学校を通じた地域活動などが挙げられました。

こうした機会を活用し、子どもや子育て世代をはじめ、多様な世代の参加をさらに増やしていくための取り組みを検討していきます。

いただいたご意見

イベントに参加したくても、一緒に参加できる友達が地域外にいるため、一人で参加しにくい



4.2 課題解決の方向性について

(2) 時間や場所を選ばず参加できる仕組みづくり 中・長期

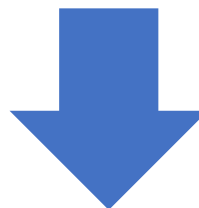
「懇話会」の参加者からは、地域活動の時間や場所が限られているため参加したくてもできない方もいるという意見や、地域の外からでも参加できる仕組みが必要という意見もありました。

そうした方も参加できるようにするために、活動の内容や日程の見直しを検討するほか、デジタル技術を活用し、外出先や自宅などからいつでも参加できる仮想空間における活動など、時間や場所にしばられずに参加できる仕組みづくりについても検討していきます。

第3回でいただいたご意見と反映内容

いただいたご意見

「やさしい日本語講座」など外国人対応が必要



4.2 課題解決の方向性について

C 活動の魅力・情報不足の解決に向けて

活動の魅力や情報が不足している要因としては、「活動内容が固定化していること」や「情報発信が不足していること」などが考えられます。これらの要因に対する解決策の方向性を以下に示します。

(2) 情報の多言語化

短期

本区が行った「外国人区民に関するアンケート」の結果によると、約77%の外国籍の方が「地域の活動に参加したい」と回答しています。

しかし、現在地域活動に関する情報は日本語によるものが多く、外国籍の方には、まだまだ行き届いていない側面もあります。

「懇話会」の参加者からは、やさしい日本語による情報発信や広報媒体の多言語化などが必要という声がありました。引き続き、言語の壁をなくす取り組みやその支援について進めていきます。

いただいたご意見

楽しく元気にかかわること、その姿を見て一人ひとりが自分事として興味を持ってもらいたい



4.2 課題解決の方向性について

(3) 魅力向上の取り組み

中・長期


担い手の不足や固定化の解消のためにも、若い世代に魅力を感じてもらえる取り組みや、その参加を促す取り組みが求められます。

例えば「若者の声」の参加者からは、芸能人や“推し”が関わる活動であれば参加のきっかけになるなどの意見がありました。

また、「懇話会」の参加者からは、地域に関わる皆さまが楽しく、元気に取り組む姿を見て、興味をもってもらうことも大切であると意見がありました。

地域活動が若い世代にとってより魅力的なものになるよう、また、自らが活動に関わりたいと思えるよう、引き続きその意見を聴きながら、活動の多様化のための取り組みやその支援について検討していきます。

第3回でいただいたご意見と反映内容

 **いただいたご意見** カタカナ表現を分かりやすくしてほしい



ページ	修正前	修正後
36	(地域活動に関わる皆さまの)ニーズ	(地域活動に関わる皆さまの)課題
36	(企業の)ニーズ	(企業が)提供できる解決策
36	インセンティブ	きっかけ
38	グリーンスローモビリティ	下記の説明文追加
39	プラットフォーム	ホームページ
40	モチベーション	きっかけ

参 考

～交通空白地域^{*1}の解消について～

「懇話会」の参加者からは、交通空白地域においては、移動手段が限られるため、地域活動に参加したくても参加しにくいという声がありました。

区では現在、そうした地域における移動手段の確保に向けて、新たな地域交通の形としてグリーンスローモビリティ^{*2}の導入検討などを進めていますが、引き続き「地域活動の活性化」の観点からも持続可能な交通手段のあり方について研究していきます。

*1 交通空白地域: 鉄道駅から500m、バス停留所から300m以上離れた地域

*2 グリーンスローモビリティ: 時速20km未満で公道を走ることができる電動車を活用した移動手段

意見募集でいただいた主なご意見

期間:2月1日～3月2日(30日間)

意見者数:8名

- 素晴らしいと思います

- AIの活用により、行政業務の滞りを避け、少ない予算で住民から頼りになる区になると思う

- 区民同士のつながりを実感するためには、公式ラインやオープンチャットに力を入れるべきではないか。利用拡大には、金銭的報酬をプレゼントするのが効果的だと考える。イベントに参加する前に、何かしらのつながりがあった方が、よりイベントの楽しみが増大する

- 区の進め方は地域住民主体でないやり方のように感じる。地域のみなさんの「自分たちの地域は、自分たちで作る」姿勢を大事にするべき。自治会・町会は地域づくりには欠かせない団体であり、そして地域のその他の様々な団体、企業とも時間をかけて地域づくりを進めるべき。「短期・中・長期」の進め方も地域に根差して、地域住民が主体で解決に向けて取り組むべき。

- もっと時間をかけて基本構想策定に取り組むべき。3月で基本構想を完成させると言っているが、「ミニ区役所」についても、議会の場で十分議論すべき

意見募集でいただいた主なご意見

- 「持続可能な」という言い回しについて非常に違和感を覚える。”持続させること”は区民に課せられた責任ではなく区が負っている責任である
 - 70年以上先の状況ではなく、現在の足元の状況を的確に捉え、対処するべき
 - 民間企業と区は一切関わるべきではない。民間企業が地域貢献したいのであれば、区を通さず、自力で営業活動をして実施すればよい
 - 「まちのこれからについて意見や希望をもつ方が自由に集まりにぎやかに語りあう姿」というものが懇話会という形で部分的に実現できているので、懇話会を継続すべき。
 - 本構想には反対。区民サービスの縮小につながる可能性が高いミニ区役所の構想や新庁舎建設についても反対
-
- 懇話会や若者の声の実施で意見を踏まえたところがあるが、人数が定量的に示されていない。期間も短く、範囲が限定的なため、より時間をかけて意見を聴取すべき
 - 若者の声については、学校数の記載はあるが、人数などの規模は読み取れない。懇話会とのバランスを考えても、記載は不十分ではないか
-
- 課題解決に向けた協力先の中に、神社や仏閣など地域の文化的資産を追加してはどうか



いただいたご意見

課題解決に向けた協力先の中に、神社や仏閣など地域の文化的資産を追加してはどうか



3.1 地域に関わる皆さままで協力しあう仕組み(地域連携の場)とその機能

3.1.3 3 課題を解決できる人や団体を見つけ、結びつける機能

地域に関わる皆さまから出された課題の中には、既存のつながりの中だけでは解決できない課題もあるかもしれません。

その場合は、その地域に住んでいる方だけでなく、官公署、企業・店舗、医療機関、学校、神社・仏閣など、地域内のあらゆる方の協力も必要になってきます。また場合によっては地域の外にいる方の協力も必要です。

そこで、この「地域連携の場」には、その課題の解決に必要な人や団体を見つけ、つなぎ、協力関係を築く役割が求められます。

そのためにも、「地域連携の場」に関わるメンバーは日ごろから地域内の情報を収集し、さまざまな人や団体とのつながりをつくっておく必要があります。

いただいたご意見

若者の声の実施で意見を踏まえたところがあるが、
人数が定量的に示されていない



第6章 本構想の策定経過

6.2 「若者の声を聴く取り組み」について

将来、地域に関わる学生の皆さまに地域コミュニティの理想の姿・実現のためのアイデアを自由に出してもらいました。総勢801名の学生の皆さまにご意見をいただきました。

ワークショップ		アンケート		
2025年10月	東京福祉専門学校	2025年 10月～11月	小松川高等学校	紅葉川高等学校
	愛国学園短期大学		江戸川高等学校	江戸川女子高等学校
2025年11月	東京コミュニケーションアート専門学校		小岩高等学校	篠崎高等学校
			葛西工科高等学校	関東第一高等学校
			葛西南高等学校	

第6章

本構想の策定経過

- 6.1 「持続可能な地域のあり方懇話会」について
- 6.2 「若者の声を聴く取り組み」について
- 6.2 意見募集(パブリック・コメント)について

6.1 「持続可能な地域のあり方懇話会」について

日ごろから地域活動に関わっている団体の皆さまや地域活動に参加している区民の皆さまと、活動の課題や解決策の実現に向けて話しあうため、「持続可能な地域のあり方懇話会」を立ち上げました。

計4回を開催し、江戸川区の目指す地域の姿やそのための取り組みについて、32名の委員の皆さまと議論を重ねてきました。

実施日：2025年8月27日、10月18日、12月23日

2026年3月15日

実施方法：テーマごとにグループワーク など

HPへの
2次元
コード

委員名簿はこちら

HPへの
2次元
コード

詳しい取り組みはこちら



当日の様子

第6章 本構想の策定経過

6.2 「若者の声を聴く取り組み」について

将来、地域に関わる学生の皆さまに地域コミュニティの理想の姿・実現のためのアイデアを自由に出してもらいました。総勢801名の学生の皆さまにご意見をいただきました。

ワークショップ	
2025年10月	東京福祉専門学校
	愛国学園短期大学
2025年11月	東京コミュニケーションアート専門学校

アンケート		
2025年 10月～11月	小松川高等学校	紅葉川高等学校
	江戸川高等学校	江戸川女子高等学校
	小岩高等学校	篠崎高等学校
	葛西工科高等学校	関東第一高等学校
	葛西南高等学校	

HPへの
2次元
コード

詳しい取り組みはこちら

6.3 意見募集(パブリック・コメント)について

持続可能な地域のあり方基本構想(案)に対する意見募集(パブリック・コメント)

持続可能な地域のあり方基本構想(案)について、意見募集(パブリック・コメント)を広報えどがわ(2026年2月1日号)にて実施し、8名からご意見をいただきました。

・意見募集期間:2026年2月1日～3月2日

HPへの
2次元
コード

意見の詳細はこちら